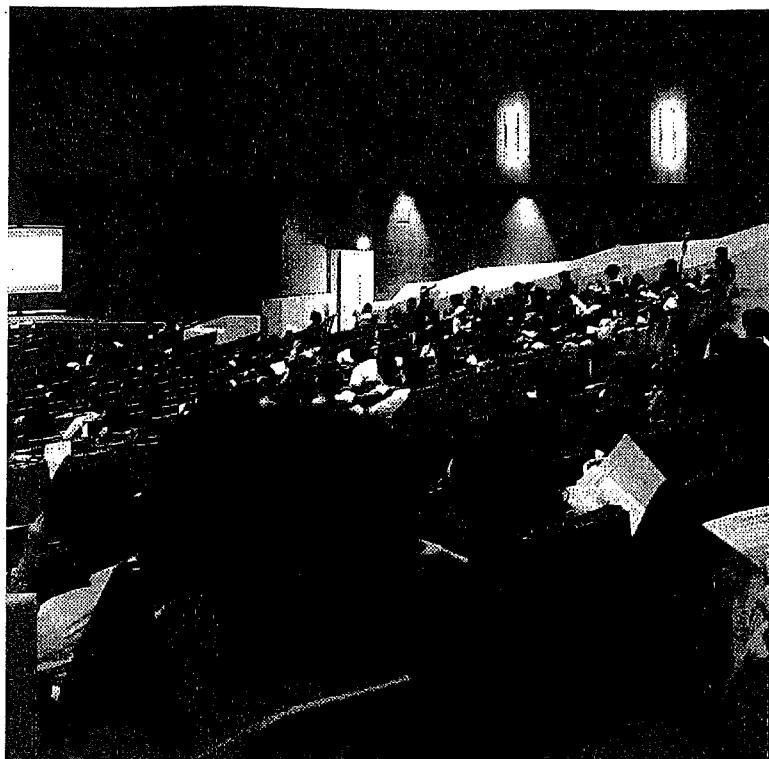


2018.7.3 版

日本歯科新聞



「高齢者の口腔医学」に焦点

老年歯科医学会が学術大会

日本老年歯科医学会は、「高齢者の口腔医学」をメインテーマに第29回学術大会（佐藤裕二大会長）を6月22、23の両日、東京都品川区真。

昭和大学医学部医学教育学講座教授の高宮有介氏による特別講演「人生の最終章を輝かせる緩和ケア—全人的ケア、死から生といのちを考える」や、日本老年歯科医学会合同シンポジウム

「高齢者のMRONJ（薬剤関連顎骨壊死）の最新像」、「在宅（訪問）歯科診療を科学する」と題した学術・在宅歯科診療検討合同シンポジウム、「高齢者の定義75歳は妥当か?—老年歯科医学からの検討」をテーマにした

多くの発表があった。卒中患者の口腔機能管理について講演。多くの脳卒中患者では抗血栓療法を行っているが、ラクナ梗塞やアテローム血栓性梗塞では抗血小板療法、心原性脳梗塞では抗凝固療法が使われているなど、病体によつて注意が必要な点や、多様な機能障害への対応が求められる点、急性期から回復期、生活期を見据えたシームレスな地域連携の重要性などへの対応」「地域でつなぐ脳が取り上げられた。